

褒めることはむずかしい？「オットセイ理論」

先日、名古屋テレビを見ていたら、子どもを褒める方法について特集をしていました。その中で、3人の子育てをするお母さんが出ていました。このお母さんは、普段から褒めるように努力されていました。

〈普段よく使う褒め言葉〉

- ありがとう ○うれしかったよ ○たすかった ○がんばったね ○すごい
- できるようになったね ○ひとつふえたね ○さすが ○うまくなったね
- つよいな ○よめるようになったね

1分30秒で思いついた褒め言葉がこれだけあるというのは、普段からよく褒めてみえる証拠ですよ。でも、子どもさんが小学校高学年から中学生になったら、褒めることがなくなったり、褒めても子どもさんが喜ばなくなったりするそうです。

そんな時、思春期のお子さんでも通用する褒め方が、「オットセイ理論」に基づいた褒め方だそうです。「オットセイ理論」とは、『おおっと SAY（言う）』という意味です。では、どのように褒めるのでしょうか。

それは、普段の当たり前のことの前に「おお」を付けるのです。そうすれば、当たり前のことをしているだけだけれど褒められるようになります。例えば、

- 「おお、起きてきたじゃん。」
- 「おお、学校行くんだ。」
- 「おお、帰ってきたね。」

「おお、帰ってきたね。」というのは、帰ってきたねと言っているだけだけれど、でも実はちょっとうれしいと子どもが感じるのだそうです。

「おお、宿題やってるじゃん。」というだけだけれども、子どもにとっては宿題をやっているところを見ていてくれると感じて安心するのだそうです。一度使ってみてはいかがでしょうか。

他にも、褒めることしかしてはいけない野球大会の紹介がありました。エラーをしても「ナイスチャレンジ、次はとれるよ。」のような言葉かけがあります。そうすると、失敗しても挑戦しようという気持ちになります。子どもたちは、野球を楽しみ、野球が大好きになります。楽しいから次もやりたい。そんなやる気を創り出すことは、すべてのもとになりますよね。

参考：名古屋テレビドデスカプラス 一歩前へ12月12日「褒めるのススメ」